

「福笑い」まもなく収穫の時期を迎えます！



↑ 収穫期をむかえた「福笑い」

いわせの錦秋米生産部会で実証ほを担当している、(有)リープエクセルの「福笑い」です。

8/15に出穂しました。登熟は良好に推移しています。『「福笑い」の作付も今年で2年目。昨年は、皆様から「美味しいお米だね」と言われました。今年も皆さんに美味しいといわれるよう、食味にこだわって栽培しています』とのことでした。

(県中農林事務所須賀川農業普及所)

会津あぐえこ研究会に所属する有限会社あいづ米'sの「福笑い」現地実証ほです。

今年初めて、「福笑い」を作付けし、ほ場選定や苗作り、穂肥等々、細心の注意を払って栽培管理を行ってきました。

8/3~4の大雨被害も無く、たわわに実った稲穂は、黄金に色付き始め、直に美味しい新米が消費者に届けられます。

(会津農林事務所喜多方農業普及所)



↑ 有限会社あいづ米'sの「福笑い」

「福、笑い」のデザイン使用について

県では、「福、笑い」のブランドイメージを確立するため、統一デザイン米袋の使用を推奨しており、米袋の販売事業者から購入することができます(①)。

また、お米の販売事業者などが「福、笑い」の販売等のため、米袋や関連商品に「福、笑い」のデザインを独自に使用、製作することもできます(②)。

①、②いずれの場合にも、あらかじめ県農産物流通課にデザインの使用を申請し、許可を受ける必要がありますのでご注意ください。デザインの使用料は無料です。

この度、「福、笑い」のパッケージデザインが「日本パッケージデザイン大賞2023」で銀賞(食品部門で最高賞)を受賞しました！



(農産物流通課)

① 米袋の販売事業者への問合せ先についてはこちら
<https://fukuwarai-fukushima.jp/production/#bag>



二次元コード：米袋問合せ

② デザインの使用申請についてはこちら

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035a/originalmai-design.html>



二次元コード：デザイン申請



農業総合センターからの生産技術ポイント



【現在のセンターの生育】

稈長は3方部ともほぼ平年並みです。穂長は3方部ともやや短い傾向です。穂数については3方部とも少ない傾向が見られました。

【今後の栽培管理について】

＜適期収穫＞

「福笑い」の積算気温による刈取適期の目安は以下のとおりです。

- ・ 中通り：1,050～1,200℃
 - ・ 会津：1,000～1,200℃
 - ・ 浜通り：1,100～1,200℃
- ※過去の研究より、積算気温が1,200℃を超えると味度値が低下することがわかっています。



9/13 現在の「福笑い」↑(本部)

これら積算気温に加え、籾の黄化率が80～90%になった時期が刈取適期となります。

令和3年度は刈遅れ状態で、降雨と高気温による乾湿の繰り返しの遭遇し、胴割粒が発生しました。胴割粒や未熟粒の混入により3等や規格外となった場合には、「福、笑い」としての出荷を差し控えていただいています。

高品質・良食味の「福、笑い」生産のために、適期収穫を行ってください。

なお、各地域における「福笑い」の刈取適期については、最寄りの農林事務所農業振興普及部・農業普及所に問合せください。

＜乾燥調製＞

過乾燥・胴割れによる品質低下を防ぐため、二段乾燥を実施してください。二段乾燥は、籾水分を18%程度まで乾燥した後、一度乾燥機を止め、単粒間の水分移動後に仕上げ乾燥を行う手法です。

胴割を防止するために、乾燥速度の目安は毎時乾減率0.8%、乾燥温度の目安は籾水分25%で送風温度40℃以下とします。

表 農業総合センターにおける「福笑い」生育状況

調査場所	年次	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	出穂期	成熟期	9/13時点の積算気温(℃)
本部	本年	79.6	18.1	389	8/16		651
	前3ヶ年	78.7	19.3	441	8/13	9/26	-
	前3ヶ年比差	(101)	(94)	(88)	(3)	-	-
会津地域研究所	本年	83.3	19.5	431	8/8		895
	前2ヶ年	85.3	20.1	445	8/5	9/20	-
	前2ヶ年比差	(98)	(97)	(97)	(3)	-	-
浜地域研究所	本年	85.2	19.3	(408)	8/13		726
	前2ヶ年	85.0	20.5	429	8/14	9/30	-
	前2ヶ年比差	(100)	(94)	(95)	(-1)	-	-

※移植日は本部：5/16、会津：5/19、浜：5/10です。
積算気温は出穂期から起算した値であり、本部はアメダス郡山、会津はアメダス若松、浜はアメダス相馬のデータです。
浜の穂数は暫定値であるため、()で示しました。



籾黄化率70%の様子↑(ひとめぼれ・9/15時点)

(※8/6出穂 1穂籾数60粒程度)

(農業総合センター作物園芸部稲作科)



JA 福島さくら「福、笑い」研究会 (活動 3 年目)

研究会員、生産地域について：

JA福島さくら「福、笑い」研究会につきましては、郡山・いわき・ふたばと広い地域の生産者 15 名で作る研究会となっています。

「福、笑い」生産において気を付けていること：

生産地が広範囲であるため、地区ごとに指導会等を行い、栽培指導を行っています。

一言：

令和 4 年度において当研究会会長の遠藤昭夫会長が新嘗祭献穀献納に係る献穀米を生産することになり、「福、笑い」を献納することになりました。

「福、笑い」が献穀米となることは初めてのことです。

5 月に御田植式を行い、関係者や高校の生徒とともに田植えを行いました。

遠藤会長は、「献穀米を通じて『福、笑い』を全国に知ってもらおう契機にしたい」と話していました。



御田植式において苗を植える遠藤会長 ↑



会津「福、笑い」プロジェクト(活動 1 年目)

研究会員、生産地域について：

今年度より会津若松市、会津坂下町のほ場を 3 名で作付けしています。

「福、笑い」生産において気を付けていること：

8/18 頃穂揃期を迎え、畦畔の草刈りやほ場内の雑草、漏生イネ、病害虫に注意しながら、週 2～3 日巡回しています。

販売に向けて：

米の卸売業者に声をかけながら販売活動を行う予定です。

一言：

「福、笑い」の基準を満たし、おいしい「福、笑い」が生産できるよう頑張ります。

稲刈りは、9 月末から 10 月初旬にかけて行う予定です。



会津「福、笑い」プロジェクトの会津坂下町「福笑い」ほ場 (9/15 撮影)

